

# 令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書(3月31日現在)

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等の大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務課 全教員	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 57%以上 B 52%以上 C 45%以上 D 45%未満	〔12月実施「後期生徒による授業評価」〕 A評価の平均 54.3% →【判定 B】  <内訳> 「授業のねらい」 55.1% 「教員の熱意や工夫」 58.6% 「説明や指示」 54.3% 「考えさせる場面」 59.6% 「興味・関心が高まる」 43.7%	今年度前期と比較して、A評価の平均は53.4%→54.3%であった。内訳は、「ねらい」53.4%→55.1%、「熱意や工夫」58.0%→58.6%、「説明や指示」53.8%→54.3%、「考えさせる場面」59.5%→59.6%、「興味・関心」42.1%→43.7%である。前回の調査と比較し全ての項目で改善がみられ数値は上昇した。ただし、「興味・関心」の評価が低く、改善していかなければならない。引き続き、生徒の力を引き出し、飽きさせない授業作りの工夫、そして生徒の学習意欲を高められるよう留意し、授業改善に努めていく。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	自らの学習について (ア)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	〔12月実施「学校評価アンケート(生徒)」〕 (ア)+(イ)の合計 72.0% →【判定 B】  <内訳> 英語 73%(7:29%、1:44%) 数学 76%(7:31%、1:45%) 国語 67%(7:17%、1:50%)	今年度前期と比較して、3教科の肯定的な回答の平均は、72%(英語71%→73%、数学79%→76%、国語63%→67%)で前期(71%)からは微増で前期同様B判定であった。1・2年生のうちから主体的な学習について考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。
			家庭学習時間が学年の目標値(1年2時間、2年2.5時間)に達している1・2年生のそれぞれの割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	〔9・11月実施「家庭学習時間調査」〕 1年(2時間) 66.6% →【判定 A】  2年(2.5時間) 52.3% →【判定 B】	今年度前期と比較して目標達成した割合は、1年生71.9%→66.6%、2年生47.5%→52.3%で、1年生は前期と比べると割合は減少したが、前期同様A判定であった。また、2年生は前期C判定がB判定になり、目標を達成した生徒が増加した。課題を適正な量でより内容の濃いものに見直すことはもちろん、主体的に家庭学習に取り組ませるためにも興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。
	③ 国際社会において必要な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	〔12月受検GTEC検定版〕 2年生が12月受検したGTEC検定版の結果 A2.2以上 320人 91.4% →【判定 C】	B1.2 22人、B1.1 144人、A2.2 154人、A2.1 19人、A1.3 1人であった。2年人文科学コースでは、7月、10月の県内在住外国人との交流研修において各生徒が課題研究のプレゼンテーションなどを通じて、留学生(JAIST)と能動的に英語で会話をし、学習意欲を高めることにつながった。
	④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	合格者数が ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 80名以上 ウ 国公立大学合格者数 250名以上 A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	〔大学入試結果〕 ア 16名(現役13名+既卒3名) イ 77名(現役75名+既卒2名) ウ 282名(現役270名+既卒12名)  ウの1指標を達成 →【判定 C】	達成した指標はウのみであったが、3年生(現役)だけの集計によると、国公立大学現役合格者数、難関大学合格者数および金沢大学合格者数はここ最近20年間で最高の結果を残すことができた。例年と同じかそれ以上に放課後や休日の3年生の自主的な登校学習が見られ、最後まで粘り強く努力した。2年生に対して、1月に行われた進路希望調査では難関大学志望者が19.7%であった。3年生が22.3%であったことを踏まえると、上位の大学を狙う意識の醸成をさらにしていかなければならない。引き続き、生徒に適した進路に向けて指導をしていく。

# 令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書(3月31日現在)

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	生徒が「部活動は限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる」の質問に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 77%(ア:29%、イ:48%) →【判定 C】  <内訳> 1年 74%(ア:32%、イ:42%) 2年 74%(ア:24%、イ:50%) 3年 84%(ア:31%、イ:53%)	全体では前期92%から15%減少した。昨年度も同様な傾向が見られた。限られた時間の中で効率的・効果的な部活動を心がけようという共通認識、理解のもと一年を通じて継続して行われているが、天候や季節的なことが原因なのか、あるいは他に何か原因があるのか分析が必要である。
			生徒が「下校時間を遵守している」の質問に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 94%(ア:69%、イ:25%) →【判定 B】  <内訳> 1年 89%(ア:62%、イ:27%) 2年 94%(ア:64%、イ:30%) 3年 98%(ア:81%、イ:17%)	前年度91%に比べ高い結果となり、概ね時間を遵守している。部活動終了後の速やかな帰宅行動を今後も継続して取り組ませたい。
	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満  ・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 81%(ア:30%、イ:51%) →【判定 B】  <内訳> 1年 79%(ア:30%、イ:49%) 2年 81%(ア:27%、イ:54%) 3年 85%(ア:34%、イ:51%)  [12月実施「学校評価アンケート(生徒)(保護者)」] (ア)+(イ)の合計 96% (生徒:97%、保護者:95%) →【判定 A】  <内訳> 1年 生徒95%(ア:56%、イ:39%) 2年 生徒97%(ア:57%、イ:40%) 3年 生徒96%(ア:59%、イ:37%) 注:保護者学年別データなし	前年度と同じ結果となった。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとうございます」「すみません」など基本的な挨拶ができるよう、授業や部活動、その他の様々な場面で挨拶の励行や指導に努めていきたい。  生徒、保護者とも非常に高い結果となった。服装や容儀など身だしなみについて、生徒、職員、保護者と話し合いながら、今後も生徒自身が自らふさわしい容儀に心掛けるよう働きかけていきたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)54% →【判定 C】  <内訳> 1年 56% 2年 54% 3年 52%	定期的に交通ルールの理解及び遵守、マナーの向上について指導しているが行動に結びついていない。令和6年11月より改正道路交通法が施行され、警察による自転車の交通違反について取り締まりが厳しくなった。今後違反者には反則金が科せられる。このこともあわせ引き続き定期的に交通ルールを守りマナーの向上にむけ訴えかけていきたい。

# 令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書(3月31日現在)

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	相談 生徒指導 保健 学年	(生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満  (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 57% (ア:22%、イ:35%) →【判定 C】  <内訳> 1年 55% (ア:23%、イ:32%) 2年 55% (ア:17%、イ:38%) 3年 61% (ア:24%、イ:37%)  [12月実施学校評価アンケート(教員)] (ア)41% →【判定 C】	(オ)わからないを回答している生徒が34%いる。単純に(ア)+(イ)の割合での評価ではなく、(ウ)+(エ)の割合を減少させていく方向に基準を変更してもよいのではないかと。  (ア)の割合はたしかに減少しているが、(イ)も含めると92%が肯定的な評価となっている。決して悪い数字ではなく、今の状況を考えると相談課がイニシアチブを取って連携するのは非常に難しいと思うので、保健課としてもサポートできればと考えている。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] 「学習以外で1日にどのくらいの時間使用していますか」という質問に対して 1時間以内の生徒の割合 26% →【判定 D】  <内訳> 1年 16% (30分以内:2%、30分～60分以内:14%) 2年 17% (30分以内:3%、30分～60分以内:14%) 3年 46% (30分以内:11%、30分～60分以内:35%)	スマートフォンの使用時間を1時間以内におさえている生徒は、受験を控えた3年生の割合が一番高い。1、2年生においては、1時間を超える生徒が8割を超えている。小学生時よりスマートフォンを使っている生徒の割合が増えてきている中、他の端末機器とあわせ取扱いや使い過ぎによる弊害について学校や保護者、その他様々な関係機関と協力しながら適切な使用について生徒に訴えかけていきたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	[読書量調査(生徒)] 2月1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合 48.0% →【判定 B】  <内訳> 1年 51.5% 2年 45.0% 3年は調査対象外	6月の読書量調査の際には27.7%、9月の調査では読書率が35.9%と少しずつ回復した。2月の読書量調査で、最終的に48.0%となり、例年並みの読書率を維持できた。1月LHで実施した図書館講座で先生方の読書の大切さを訴えかける言葉をきっかけに、本を借りに図書館へ足を運んでくれる生徒が大勢出てきたためであろう。1、2年生の課題研究で図書館の書籍を積極的に活用してほしいが、1人1台端末で教室で検索すればすぐに情報を得られる状況の中で、紙媒体による読書が減少することは時代の流れとも言え、幅広い読書で思考力を高める大切な機会を喪失するようで寂しい限りである。今後も、読書を通じて心身ともに健やかな桜高生の育成に尽力していきたい。
3 校是「文武両道」の実践に、教職員の共通理解のもとで取り組み、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高め、明るく活気のある、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全教職員	「職員会議や各種会議が、効率的に運営され機能している。」という質問項目及び、「各課・各学年が、互いに連携し、組織として有効に機能している。」という質問項目の両方において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」] 教員アンケートNo.4「職員会議や各種会議が、効率的に運営され機能している」及び、No.3「各課・各学年が、互いに連携し、組織として有効に機能している」という質問に対して No.4 (ア)11% No.3 (ア)10% →【判定 D】	前期とほぼ同じ結果であったが、「会議が効率的に運営、機能している」という項目については、否定的評価の割合が前期と比較し、25%から11%に減少した。各課・学年の連携については、分掌間、分掌内での調整を業務実施前に行うこと、業務実施後は反省点をまとめ、次に活かすことで改善を図りたい。

# 令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書(3月31日現在)

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)																														
		② 校内研修会をより充実させ、今日の教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	教務 進路指導 保健 相談	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」] (ア)21% →【判定 C】	出願検討会への参加希望者が例年より多く感じた。より一層、進路指導の経験が豊富な担任と経験が少ない担任の間で情報の共有をできるように努めていきたい。 今年度、県教員総合研修センターの指導主事参観によるGIGAの校内研究授業を実施したことにより、授業改善のための充実した研修となった。																														
		③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	[10月集計「後期部活動加入状況」] 90.8% →【判定 A】  <内訳> <table><tr><td></td><td></td><td>運動部</td><td>文化部</td><td>合 計</td></tr><tr><td>1年</td><td>男子</td><td>82.8%</td><td>6.4%</td><td>89.2%</td></tr><tr><td></td><td>女子</td><td>52.2%</td><td>39.4%</td><td>91.6%</td></tr><tr><td>2年</td><td>男子</td><td>76.1%</td><td>15.2%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td></td><td>女子</td><td>38.4%</td><td>52.3%</td><td>90.7%</td></tr><tr><td colspan="2">全体</td><td>61.7%</td><td>29.1%</td><td>90.8%</td></tr></table>			運動部	文化部	合 計	1年	男子	82.8%	6.4%	89.2%		女子	52.2%	39.4%	91.6%	2年	男子	76.1%	15.2%	91.3%		女子	38.4%	52.3%	90.7%	全体		61.7%	29.1%	90.8%	昨年度に続き90%を超え高い加入率となった。中学校では部の精選、外部団体や地域への移行が近い将来益々進むことが予測される中、本校の特色でもある文武両道を志す生徒が増え今後も継続して活動できる部活動につなげていきたい。
				運動部	文化部	合 計																														
		1年	男子	82.8%	6.4%	89.2%																														
	女子	52.2%	39.4%	91.6%																																
2年	男子	76.1%	15.2%	91.3%																																
	女子	38.4%	52.3%	90.7%																																
全体		61.7%	29.1%	90.8%																																
④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	総務 教務 生徒指導 学年 情報	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4300名以上 B 4000名以上 C 3500名以上 D 3500名未満  行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)	保護者の延べ人数 4,443名 →【判定 A】 <内訳> <table><tr><td>入学式</td><td>580名</td></tr><tr><td>卒業式</td><td>503名</td></tr><tr><td>P T A 総会</td><td>308名</td></tr><tr><td>進路説明会 1年</td><td>255名</td></tr><tr><td>進路説明会 2年</td><td>209名</td></tr><tr><td>進路説明会 3年</td><td>152名</td></tr><tr><td>桜高祭</td><td>1500名</td></tr><tr><td>3S歩行(協力者会議を含む)</td><td>523名</td></tr><tr><td>学校公開(教育ウィーク)</td><td>84名</td></tr><tr><td>学校訪問(中学校P T A)</td><td>329名</td></tr></table>	入学式	580名	卒業式	503名	P T A 総会	308名	進路説明会 1年	255名	進路説明会 2年	209名	進路説明会 3年	152名	桜高祭	1500名	3S歩行(協力者会議を含む)	523名	学校公開(教育ウィーク)	84名	学校訪問(中学校P T A)	329名	(卒業式来校者を500名と見込んで)桜高祭を一般公開としたこともあり、昨年度(3,469名)より大幅に増加した。 今後も、多くの方々に来ていただき、学校への理解を深めていただけるよう各課・学年等と連携してより組んでいきたい。												
入学式	580名																																			
卒業式	503名																																			
P T A 総会	308名																																			
進路説明会 1年	255名																																			
進路説明会 2年	209名																																			
進路説明会 3年	152名																																			
桜高祭	1500名																																			
3S歩行(協力者会議を含む)	523名																																			
学校公開(教育ウィーク)	84名																																			
学校訪問(中学校P T A)	329名																																			
				年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	[4～3月の本校ホームページアクセス数] 469,134件(4月～12月末) 【判定 A】	前年度(427,821件)と比較して増加した。 今後も、個人情報の扱いに配慮しながら生徒の日々の活動を掲載し、保護者・中学生・地域の方々の本校への理解を深めていただけるように発信していきたい。																														
4	組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間の縮減に努め、より効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。	管理職 全教職員	時間外勤務時間の縮減に努めることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」] (ア)+(イ)の合計 65%(ア:6%、イ:59%) →【判定 C】	昨年同時期と比較すると(ア)+(イ)の合計60%(ア:20%、イ:40%)から5%増加した。(ア)の割合が14%程度減少した一方、(イ)の割合は20%弱増加した。時間外勤務縮減へ向けた各自の取り組みが概ね肯定的に自己評価できる範囲だったと考えられる。部活動については、生徒・教員のゆとりの時間の確保を意識して、休養日や活動時間を適切に設定するよう働きかけを引き続き行っていきたい。																														